

## 整形外科

### 1. 2006 年度の目標及び方針

日常診療において、常に最先端かつ安全で確実な治療を提供する事を目標にしています。

脊椎疾患治療においては経皮的鏡視下レーザー椎間板摘出術などの微少侵襲脊椎手術、人工関節においても微少侵襲手術などを行い、最新で質の高い医療を提供し、増患と診療圏の拡大を目指す。

### 2. 2005 年度評価

外来診療患者、入院患者数は前年と比較しほぼ同じであるが、年間手術件数は前年と比較し約 110 件増加した。人工関節手術や脊椎疾患などの手術が増加した。外傷による手術件数はかわらないが、多発外傷や多発骨折などの重症例が多くなっている。

手術症例を含め治療上での合併症の発生は比較的少なく、質の高い医療が提供出来たと考えています。

### 3. スタッフ紹介

#### 1) 整形外科医師

2006 年 5 月現在のスタッフは、常勤医師 12 名(その内、整形外科専門医は 5 人)であり、非常勤医師として当院院長(亀田信介)が毎週土曜日午前外来、当院理事(亀田郁太郎)が毎週月曜日、水曜日、金曜日の午前外来を担当している。

また、特殊外来として月に 1 回、昭和大学の稲垣克記講師が手の外科特殊外来(末梢神経)と筋電図検査を、中村正則助教授が股関節特殊外来を行っている。

#### 2) スタッフ(2006 年 5 月現在)

常勤：11 名(整形外科専門医 4 人)

中西俊郎(部長)：1980 年昭和大学卒。整形外科専門医、昭和大学兼任講師、日本骨折治療学会評議員、昭和大学整形外科入局、1990 年 10 月より当院整形外科勤務。専門は手、脊椎、股関節、足の疾患、小児整形外科。

忽那岳志(医長)：1993 年長崎大学卒。整形外科専門医、亀田病院にて 2 年間の卒後研修後、1995 年 5 月より当院整形外科勤務。専門は手の外科、顕微鏡視下手術。

福内正義(医長)：1996 年昭和大学卒。整形外科専門医、昭和大学整形外科入局、2004 年 7 月より当院整形外科勤務。専門は整形外傷。

太田知明(医員)：1995 年日本大学卒。整形外科専門医、亀田病院にて 2 年間の卒後研修後、日大整形外科を経て 2000 年 1 月より当院整形外科勤務。専門は脊椎外科。

前田利夫(医員)：1995 年昭和大学卒。昭和大学麻酔科入局、麻酔標榜医取得後、2000 年昭和大学整形外科入局、2004 年 10 月より当院整形外科勤務。専門は整形外傷、膝関節。

市川二郎(医員)：1999 年昭和大学卒。整形外科専門医、昭和大学整形外科入局、2005 年 7 月より当院整形外科勤務。専門は整形外傷。

川邊昭仁(医員)：2000 年岩手医科大学卒。亀田病院にて 2 年間の卒後研修後、2002 年 5 月より当院整形外科研修中。

会田北斗(医員)：2000 年東京医科大学卒。亀田病院にて 2 年間の卒後研修後、2004 年 5 月より当院

整形外科研修中。

野沢有二(医員)：2000年埼玉医科大学卒。埼玉医科大学総合医療センター整形外科入局、2005年5月より当院整形外科研修中。

工藤理史(医員)：2001年昭和大学卒。昭和大学整形外科入局、2006年4月より当院整形外科研修中。

松川哲也(医員)：2002年名古屋大学卒。亀田総合病院にて3年間の卒業研修後、2005年4月より当院整形外科研修中。

塚田幸行(医員)：2004年日本医科大学卒。亀田総合病院にて2年間の卒業研修後、2006年5月より当院整形外科研修中。

非常勤医師：4人

亀田郁太郎：1949年慈恵医科大学卒。当院理事、整形外科専門医。毎週月曜、水曜、金曜の午前中外来診療担当。

亀田信介：1982年岩手医科大学卒。当院院長。毎週土曜の午前外来担当。

稲垣克記：1984年昭和大学卒。整形外科専門医、昭和大学講師。専門は手の外科、肘関節外科。毎月、第3土曜日、手の外科特殊外来、筋電図検査。

中村正則：1984年昭和大学卒。整形外科専門医、昭和大学助教授。専門は股関節外科。毎月、第3金曜日午後、股関節特殊診外来。

#### 4. 年間活動内容と実績

##### 1) 外来診療

外来診療は原則的に予約制で行っています。再診患者さまは午前、午後に予約制で診察を行っていますが、初診患者さまの受付は午前のみとしています。

午前診療は出来るだけ再診患者さまの待ち時間のないように、9時から11時までは再診予約患者さまの診察時間としています。初診患者さまは診察時間が11時から12時半までの20枠の予約枠がありますが、予約外の初診患者さまは早めに来院していただければ、再診予約枠の空き時間に来院順に診察するようにしています。初診患者さまは原則的に、当院での主治医権のある医師(整形外科専門医資格を有している医師)が問診をとり、必要に応じて各医師に振り分けるシステムをとっています。

午後診療は、再診患者さまのみの完全予約として出来るだけ待ち時間の少ないように診察しています。午後の初診患者さまは救急患者のみを予約外で診察しています。毎日午後に足底板外来を開設し個々に適合した足底板を作製しております。

##### 2) 外来表

	月	火	水	木	金	土
午前初再診						
1	亀田(郁)	太田	亀田(郁)	前田	亀田(郁)	亀田(信)
2	中西	中西	福内	忽那	忽那	各医師1
3	太田	福内	市川	会田	工藤	各医師2
4	会田	川邊	野沢	工藤	市川	各医師3
5	前田	松川	川邊	野沢		
午後再診のみ						
1	忽那	中西	前田	野沢	福内	
2	川邊	市川	工藤	松川	会田	

##### 3) 外来実績

外来患者数：年間総外来患者数は 57,856 人  
 一日平均 196 人(そのうち新患患者は約 30 人)  
 外来手術数：年間 87 例  
 主に手根管症候群やばね指などの手の外科手術

4)入院実績

入院患者数：年間 796 人、平均在院日数：35 日  
 入院手術数：年間 638 例(そのうち救急手術 116 例)

5)手術実績

外来、入院手術を合わせて年間手術件数：754 例

骨折手術は 288 例で、そのうち開放骨折 37 例、多発外傷多発骨折 21 例、大腿骨頸部骨折手術 136 例であった。外傷以外の主な手術は関節疾患 103 例そのうち人工関節置換術 52 例、脊椎手術 54 例であった。(表 1 参照)

(表 1) 2005 年度整形外科患者手術内容

手術件数	754				
入院定期手術	551				
外来定期手術	87				
緊急手術	116				
<b>骨折手術</b>	<b>288</b>	<b>(重複あり)</b>	<b>321</b>	<b>その他の関節</b>	<b>20</b>
開放骨折	37			関節形成	7
多発骨折	21			関節制動	2
上肢骨折		80		関節固定	4
下肢骨折		231		受動術	5
(大腿骨頸部骨折)		136		滑膜切除	2
骨盤、股関節部骨折		10		<b>脊椎疾患</b>	<b>54</b>
骨折手術内訳				(骨折)	<b>12</b>
人工骨頭置換		48		頸椎椎弓形成	11
骨折観血的整復固定		225		椎弓切除、拡大	13
経皮的ピンニング		30		髓核摘出(Love 法)	7
創外固定		14		前方固定	12
その他		4		PLIF	5
<b>軟部損傷手術</b>	<b>72</b>			脊髄腫瘍摘出	2
腱、筋縫合		14		椎体形成	3
神経縫合		6		その他	1
血管縫合		3		<b>末梢神経疾患</b>	<b>33</b>
再接着		1		手根管開放	26
大切断		6		肘部管症候群	7
小切断		5		<b>感染症</b>	<b>39</b>
洗浄デブリ		10		関節炎手術	2
遊離組織移植		2		骨髓炎手術	4
皮膚移植など		15		洗浄デブリ	30
アキレス腱縫合		7		その他	3
その他		3		<b>腫瘍疾患</b>	<b>21</b>
<b>内固定抜去</b>	<b>53</b>			骨腫瘍摘出	2
				軟部腫瘍摘出	17
				悪性軟部腫瘍切除	2
				<b>血行障害</b>	<b>46</b>
				大切断	26

変性疾患・その他	341						
関節変性疾患	103						
股関節	26			手指疾患	36		
人工股関節全置換	22					小切断	13
骨切り(RAO,RTO)	3					洗浄デブリ	7
その他	1					ばね指手術	28
膝関節	57					ケルバン腱鞘炎	4
人工膝関節全置換	30			その他	9	腱移行術	2
半月板切除、縫合	18					その他	2
靭帯再建	4					合指症手術	1
滑膜切除	5					偽関節手術	5
受動術	0					矯正骨切り	2
						その他	1

## 5. 教育・勉強会関係など

### 1)カンファレンス

週間スケジュール：

- ・月曜、金曜(午前7時30分から8時50分)：総回診
- ・月曜(午後7時から8時30分)：グループ別入院患者カンファレンス
- ・水曜(午前7時30分から8時)：抄読会
- ・水曜(午前8時から8時50分)：術後患者カンファレンス
- ・水曜(午後5時30分から7時)：リハビリカンファレンス
- ・水曜(午後7時から10時)：外来患者カンファレンス、新入院患者カンファレンス、手術前患者カンファレンス

### 2)地域の懇話会

年間2回、4月と10月の第3週火曜日に亀田病院研修棟にて南房総整形外科懇話会を行っています。内容は症例検討会を中心に講演会も行っています。

- ・第19回南総整形外科臨床懇話会、2005年4月、鴨川、亀田病院研修棟
- ・第20回南総整形外科臨床懇話会、2005年10月、鴨川、亀田病院研修棟

### 3)後期研修(シニアレジデント)について

後期研修期間は5年間である。日本整形外科学会の教育プログラムに準じて整形外科の研修を行う。そのうち最初の1年間は外科、内科、放射線科、在宅医療など今後整形外科医として必要な関連科の研修が可能であり、その研修科の構成は本人の希望とこれまでの研修状況により決定する。

その後4年間で整形外科認定医として必要な臨床経験、知識、技術を修得する。そのうち前半2年間は救急疾患を中心に全般的な整形外科疾患の治療にあたり、後半2年間は整形外科的な慢性疾患を中心に、また興味のある専門分野についても研修して戴く。年次別プログラムは次の通りである。

#### 整形外科1年次

入院患者を約10名担当し、主治医の指導のもと、その疾患の診断・検査・手術を学ぶ。整形外科外来は週1回、退院患者を中心に担当する。

救急疾患を中心に、主治医の指導のもと緊急処置・手術などを学ぶ。

[目標] 基本診察法、基本検査、画像診断、診療録記載などの習熟。入院患者リハビリテーション、患者の術前術後管理などの研修。脊椎、脊髄、四肢関節などの機能解剖と運動器疾患の病態の理解。緊急処置と保存的治療(ギプス固定、牽引療法の習熟)

#### 整形外科 2 年次

入院患者を約 10-15 名担当。整形外科外来は週 3 回、外来再診患者を中心に診療。救急疾患及び一般的な慢性疾患に対し、主治医の指導のもと手術などを実施する。

[ 目標 ] 一般的な整形外科疾患の診断と診療計画の確立。医療の社会的側面と社会保障制度の理解。リハビリテーションの正確な処方と実施。外科的手技の習熟(骨折手術、神経・腱の手術など)

#### 整形外科 3 年次

入院患者を約 10 名担当。整形外科外来は週 3 回、外来初診及び再診患者を診療。一般的な慢性疾患に対し、主治医の指導のもと手術などを実施する。

[ 目標 ] 整形外科疾患の正確な診断と診療計画の確立。患者の主訴、希望に対しての適切な対処。装具療法の習熟。外科的手技の習熟(脊椎脊髄疾患、関節形成術、血管手術、複雑な骨折手術)

#### 整形外科 4 年次

入院患者を約 10 名担当。整形外科外来は週 3 回、外来初診及び再診患者を診療。慢性疾患を、主治医の指導のもと手術を実施する。希望する整形外科専門分野の研修。

[ 目標 ] 整形外科疾患の正確な診断と診療計画の確立。特殊病態に対する理解と対処。患者さまからの十分な信頼を得る事。専門分野での研修。外科的手技の習熟(脊椎脊髄疾患、関節形成術、血管手術、複雑な骨折手術)

#### 4) 研修中に執刀する疾患及び手術の大略

##### 整形外科 1 年次

新鮮創傷処置、骨折手術(一般的なもの)、皮膚移植術、筋腱靭帯手術

##### 整形外科 2 年次

骨折手術(比較的複雑なもの)、関節手術(関節鏡視下手術を含む)、四肢切断術、神経・腱の手術、脊椎手術(椎弓切除術)

##### 整形外科 3 年次

骨折手術(複雑なもの)、関節形成術(人工関節手術を含む)、血管の手術(マイクロサージャリーを含む)、脊椎手術(脊椎固定術)

##### 整形外科 4 年次

骨折手術(複雑なもの)、関節形成術(特殊な骨切り術を含む)、四肢長調節手術、脊椎手術(微少侵襲手術、脊髄手術を含む)

#### 6 . 学術関係

##### 1) 原著論文

佐々木和明、中西俊郎 他：寛骨臼骨折の治療経験、骨折、第 27 巻 2 号 443-445 2005

##### 2) 総説・レビューなど

なし

##### 3) 学会・研究会発表

中曽根功、中西俊郎 他：大腿骨頸部骨折症例における造影 CT を用いた深部静脈血栓および肺血栓梗塞症の検討、第 31 回日本骨折治療学会、2005.7.9 富山

歌野原慎一、中西俊郎 他：大菱形骨骨折に合併した母指手根中手関節脱臼骨折の 1 例、第 46 回関

東整形災害外科学会、2006.3.25 東京

4) 講演

なし

文責：中西俊郎